

# 沼津の水産業を 守りたい人たちの想い

沼津の海は、日本一深い駿河湾や変化に富んだ長い海岸線など、豊かな漁場となっています。巻き網漁や底引き網漁、一本釣り漁などにより、沿岸から沖合まで様々な魚介類が水揚げされており、漁業から水産加工業まで多様で特色のある水産業が営まれています。また、近年では沼津港を中心に全国から観光客が訪れ、本市の水産業は観光資源としての役割も担っています。

沼津の魚が私たちの食卓に並び、漁師をはじめとした生産者や干物工場に代表される加工業者、流通を担う物流業者などたくさんの方が関わっています。携わっている仕事は異なっても、消費者へ向けた確かな想いを胸に日々仕事に励んでいます。今回は市民の皆さんにこそ知ってほしい、沼津の水産業に従事する人たちの想いを紹介します。

## 海の仕事、 好きなんだよ。

沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会 会長の小柴敏弘さん

海が好きだから、  
伝えていきたい

数多くの漁船が並ぶ静浦漁港では、新鮮なシラスをはじめ、タチウオやタイ、ワカメなど様々な海の幸が水揚げされます。

「海が好きだからやっていますよ」と口にした顔から白い歯をのぞかせるのは漁師の小柴敏弘さん。静浦漁港を拠点に3種類の漁を行う漁師です。そのうち底引き網漁では、親方として5人の乗り子(乗組員)と共に漁船を巧みに操っています。

〈大好きな場所で働きたい〉

小柴さんは30歳を超えてから漁業の仕事に就いた異色の経歴の持ち主で、以前はガソリンスタンドで船の燃料を補給する仕事をしていました。幼い頃から大の海好きであった小柴さんは、日頃から漁師たちと交流があり「俺もいつか海の上で働きたいんだ」とよく話していたそうです。そんな中、知り合いの漁師から「人手が足りないから一緒に働かないか」と話を持ちかけられ、漁業の仕事に就いたといいます。

今では自船を操縦するだけでなく、沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会会長として、本市の水産業を牽引しています。そこで、沼津の水産業について、小柴さんにお話を伺いました。

〈沼津の水産業の現状とその取り組み〉

小柴さんは「他の第一次産業もそうだと思いますが、漁師は年々減少しています。海で働く人が増えて欲しいのはもちろんだけど、まずはこの海に興味を持って欲しい」と沼津の水産業の将来を案じています。実際に平成20年からのわずか10年で、市内の漁業就業者は約4割、漁船隻数は約3割も減少しています(※)。

この現状を受け、青壮年部では「俺たち若手がなんとかしなければ漁業就業者、ひいては沼津の水産業の未来は危うい」と感じ、市民の皆さんに少しでも海の仕事に興味を持ってもらおうと、様々な取り組みを行ってきました。なかでも漁師が目の前で魚を捌いてみせる「おさかな教室」は、子供たちにとっても人気があり、楽しみながら沼津の水産業について学ぶことができます。ことから、教育の一環として市内の幼稚園や保育園などの園児を対象に開催しています。「こんなきつかけでもいいんです。魚に興味を持ってもらえたら海に携わる仕事をやろうかと思っ子がいるかもしれない」と真剣な眼差しで語ってくれました。

〈未来へ伝えていくために〉

今や「獲る」だけでなく「伝える」ことにも取り組んでいる漁師の皆さん。そこには「少しでも海の仕事に興味を持って欲しい」という確かな想いがあ